

秋田県での民国連携事例（秋田県フォレスターチーム）

秋田県秋田地域振興局農林部森づくり推進課 副主幹 小山義信

1. はじめに

森林・林業再生プランによる人材育成研修等が増加する中で、受講修了者の立ち位置や国有林の一般会計化による新たな業務である「民有林支援」等の様々な背景をふまえて、民国連携による「秋田県フォレスター協議会」「各流域フォレスターチーム」を平成25年7月に立ち上げ、市町村支援等を行ってきた。

設立から7年目を迎え、今までの活動や成果を評価し、課題解決や今後の取組内容の修正などを検証する必要がある。

※秋田県は米代川、雄物川、子吉川と、3流域に分かれている。

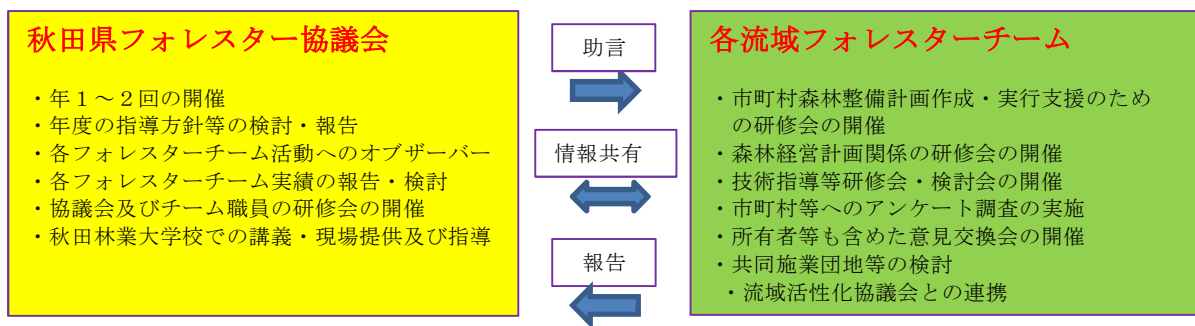
行政区域は、国有林が秋田市に東北森林管理局があり、県内に4署2支署がある。

民有林は、8振興局の中に農林部森づくり推進課がある。

また、秋田市に林業研究研修センターがあり試験研究及び普及指導の総括となっているほか、当センター内には「秋田林業大学校」も設置されている。

2. 取組内容

民国のフォレスターが連携して、市町村支援を行うこととし、情報収集及び提供、指導・助言などの方針検討を行う「フォレスター協議会」と、目標達成のため研修等を実施する「各流域フォレスターチーム」を順に立ち上げ、役割を分担し活動することとした。



協議会及びチームの活動目的として、次の3つを柱とし、活動している。

- 市町村及び森林施業プランナー等への指導助言
- 民・国有林を活用した各種研修会の開催及び講師派遣
- 民国連携による森林共同団地等の推進

具体的には、市町村森林整備計画の樹立及び実行監理に関する研修会開催、採材技術検討や一貫作業システム研修等、民国のフィールドを活用した研修及び講師、秋田林業大学校の講義等行っているほか、お互いの情報交換・共有により支援体制の強化を図っている。

(1) 「フォレスター協議会」

フォレスター協議会は、年に2回程度、年度の活動方針・各流域チームへの助言内容検

討・情報交換等行っている。



フォレスター協議会（年2回程度）
年度方針
情報交換（情報の共有）
チームへの助言内容
活動実績の検証 等

（2）「各流域フォレスターチーム」

米代川流域の市町村森林整備計画樹立の前年度に行った、計画制度に関する問題点等の市町村アンケートの回答より、チームに求められるものには様々な要望があった。一番身近にある問題と感じたものが「森林・林業施策を推移していく上で市町村担当者の役割が重要だと思うが、現状では、配置される職員は未経験者が多く、ほとんどが知識を習得する前や、慣れてきた頃に異動してしまうため今後の指導・助言・研修会等の開催継続を希望する」という意見であった。

こういった意見を踏まえ各チームによる様々な活動が行われている。

①「市町村及び森林施業プランナー等への指導助言」

市町村森林整備計画樹立の年には、計画作成研修会を開催している。

樹立までのスケジュールや森林管理局長からの意見聴取方法等の説明、市町村間の情報提供も交え、作成内容の検討を行っている。

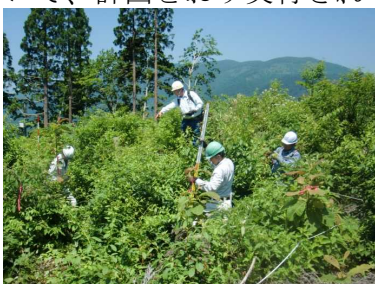


市町村森林整備計画作成研修会（編成年度）
各市町村の地域性の打ち出し
ゾーニングの再検討
施業方法等の再確認
スケジュールの確認
意見書の聴取方法

樹立の年以外は、計画の実行監理として検討会を行っている。

「天然更新地の完了確認研修」は、伐採届の記載内容で天然更新と計画された箇所について、天然更新が適切に完了しているかの判断について現場も含めた研修を行っているほか、森林経営計画認定者の市町村担当者及び申請側の森林組合担当職員を対象にした「森林経営計画作成及び監理研修」も開催している。

認定基準の再認識や計画内容の考え方などの室内研修のほか、認定済みの計画対象地において、計画どおり実行されているかなどの、踏査・意見交換も行っている。



②「民・国有林を活用した各種研修会の開催及び講師派遣」

スギ及び広葉樹の採材技術検討会、一貫作業システム施行地や、県の試験地を活用した低コスト造林技術など、お互いのフィールドを活用し研修会等を開催すると共に講師の派遣を行っている。



また、秋田林業大学校への研修フィールドの提供及び講師のほか、大学校での講義の一部もチーム員が行っている。



秋田林業大学校への協力
研修フィールドの提供・講師
大学校内での講義

③「民国連携による森林共同団地等の推進」

秋田県内でも協議会等立ち上げ後、新たに5箇所の共同施業団地が設定され、計8団地が設定されている。

平成27年には雄物川流域管内での共同施業団地を活用した研修会を開催した。

現地にて、路網配置演習・車両系作業システムによる実演・労働基準監督署からの安全管理指導など行った。



共同施業団地を活用した研修会
(H27年度)
路網配置演習
作業方法実演(作業道作設・伐採)
安全管理指導(監督署による指導)など

その他、お互いの主催する発表会や報告会等に参加し合い、様々な情報を収集し、情報共有ができるようになった。

また、秋田県と、東北森林管理局は、平成26年9月に、「秋田を元気にする、緑の覚書」を締結している。秋田を元気にする林業の取組について、民有林と国有林が更に連携を強化し、推進していくこととしている。

3. 結果及び考察

(1) 活動の成果

6年を経過しフォレスターチームについて聞き取りを行った。

対象者は、市町村担当者、国有林チーム員、県チーム員となっている。

【取組等の成果に対する回答】

- ・特徴を持った森林整備計画書を樹立することができた、又は、支援ができた
- ・市町村間での情報交換・情報共有ができた
- ・現場研修で施業等のイメージがしやすくなった
- ・共同施業団地で協調出荷などの成果を出せた等

【要望や改善に繋がる回答】

- ・今後も集合研修等の開催を望む
- ・個別指導の効率が上がる場合もある
- ・新たな施策・ニーズに伴った研修の開催等

これ以外にもたくさんの意見や感想を得ている。

新たにスタートを切った「森林経営管理制度」は、特に市町村主体の制度であるため、新たな活動内容に盛り組む必要もある。

(2) 課題

活動の評価・必要性・今後の活動に対する期待や要望など、生の声を聞き入れる事で、より良い活動が必要であることを実感した。

支援体制の確立・互いの役割分担など、軌道に乗った部分はあるが、更なる強化のためには、メンバーの知識・技術はもちろん支援に対する資質向上も図る必要があると強く感じている。

今後も様々な声を聞き入れ、支援方法の改善・修正を繰り返し支援強化を図ることが課題である。もちろん地域から必要とされる支援体制の母体であり続けるためには、継続していくことも重要である。

(3) おわりに

協議会及びチームを立ち上げ活動する体制も整い成果も認められてきている。時代背景や施策の流れなど様々な問題・課題も発生していく中、協議会及びチームの活動強化はもちろん、我々の資質向上も必要となる。基本目標をぶれることなく継続していくこと、時代のニーズに沿った活動や、様々な支援を実行していくことがチームの使命と感じている。

民国互いの連携をますます強化させ、秋田の林業をより元気にさせるための活動を継続していく。



国有林



秋田県

民国連携 「秋田県フォレスター協議会」「流域フォレスターチーム」